

飯南

い
い
な
ん

議会報

第47号
平成28年10月20日

- 02 特集 教育の基本は田舎にあり
- 04 9月定例会報告
請願 陳情
一般会計補正予算
- 05 一般質問
- 10 常任委員会報告
決算審査特別委員会
議会活動報告
議会全員協議会の議題
- 12 明日を拓く





先人の思い現代に蘇るか 畑田東水路の改修

傷みの激しい畑田東水路

谷地区畑田内の水力発電所に送水している水路は、農業用水路として水田にも水を供給しています。畑田自治会からこの水路の改修を求める陳情が6月定例会に提出されました。

審査した教育経済常任委員会は、水路所有者がJAしまねになっていることから、継続審査にして調査してきました。

この発電所は、谷村農協時代（昭和の大合併前）に当時の組合長を中心に地域振興のため苦勞して整備したもので、昭和32年2月から稼働しています。

同年には赤来町が誕生し、農協も統合さ

れ、発電所は谷地区の住民から手の届かないところへ遠ざかってしまいました。さらに農協は、JA雲南、JAしまねに統合され、現在に至っています。

そしてJAしまねは、老朽化した発電所の更新には多大な投資が必要として断念し、手放そうとしています。このまま老朽化した水路を放置すれば、災害などにより崩壊の恐れもあります。そうなれば水田も発電所も稼働できません。

議会は、本定例会でこの陳情を採択し、農地を守る決断をしました。

発電所については経済産業省の補助金



発電所

を使い、改修しても採算性があるか試算してみる考えです。もし、採算がとれると判断すれば、先人の思いが現代に蘇る可能性があります。



こんな田舎で人間らしい教育を受けさせたい、受けたいと移住してくる若者たちがいます。

空き家を借りて、土を耕し、汗とどろにまみれて、人間らしい暮らしが子供たちのためになると信じて一生懸命働いています。

飯 南高校には、県外から人とのふれあいや未知の文化を体験したくて入学してきます。休日には集落の行事に参加し、おじさんの昔話を聞き、おばさんのおいしい郷土料理に感激して、また次の機会を楽しみにしています。居ながらにしてこのような体験ができる地元の子供たちは、随分恵まれています。

環境を生かしながら、様々な体験を通じて豊かな人間性を培う教育を、町ぐるみで進めていきましょう。そのことが自分自身の豊かさとなって帰ってくるのです。

市部では、すでにこの精神は希薄となり、人と人のつながりは会社内の利害関係と家族の関係くらいになってしまいました。

しかし、田舎ではまだすたれずに守られています。消防団や自治組織など、公共に奉仕することは当たり前、過疎・高齢化社会にあつて、互いに助け合う共助の精神なくしては安心して暮らしていきません。

この地を取り巻く自然は、時には厳しく、時には優しく包み込むように、四季折々の表情の中で生きる知恵や力を教え、人間も自然の一部であることを自覚させてくれます。

神 楽やはやしこ、トロヘイなど伝統文化を守り、すたれた伝統の再生を試みる機運や次の世代を取り込むために新たな挑戦が始まっています。

まちづくり・人づくり 教育の基本は 田舎にあり

福 沢論吉翁は、「教育の基本は家庭にあり」と教えています。核家族化が進んだ今日では、「教育の基本は田舎にあり」ではないでしょうか。

先の大戦後、個の尊重を中心に据えた教育が推進され、日本人が本来持つ公共の利益や世間の務めに尽力する精神がすたれてきました。

平成18年の教育基本法の改定により、公共の精神の尊重、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成、伝統を継承し新しい文化の創造を目指すことが新たに規定されました。

このことは太古から日本人が培ってきたことで、精神の根幹をなすものです。

9月定例会終わる

9月6日から16日までの11日間で開催

本年5月4日、邑智郡内の県道で直径1メートルの岩が落下し、走行中の軽乗用車に激突、2人の死傷者が出た。大変痛ましい事故に多くの人が衝撃を受けた。本町でもこのような事故が起こることのないよう、全路線を点検し危険箇所が確認され、注意を喚起する看板が設置される。

通行者は、道路は安全であると思つて利用している。議会には信頼にこたえるために万全をつくすよう申し入れた。



可決された主な議案

- 条例関係
 - 飯南町デマンド型乗合タクシーの運行に関する条例の制定など4件
- 補正予算
 - 平成28年度飯南町一般会計補正予算(第3号)など6件
- 諸議案
 - 権利の放棄(フロンティアあかぎ解散に伴う残余財産の権利放棄)

提出されたその他の案件

- 認定
 - 平成27年度飯南町各会計歳入歳出決算認定
- 報告
 - 健全化判断比率及び資金不足比率の報告など2件

請願

- 飯南町畜産振興に伴う堆肥センター整備に関する請願
- 〔請願者〕 島根県雲南市木次町里方108816
- 代表 島根県農業協同組合雲南地区本部
- 本部長 加藤博樹
- 〔紹介議員〕 門真一郎議員・熊谷兼樹議員
- 〔審査委員会〕 教育経済常任委員会
- 〔審査結果〕 継続審査

陳情

- 畑田東水路の改修についての陳情
- 〔陳情者〕 飯南町畑田68番地
- 代表 畑田自治会長
- 〔審査委員会〕 教育経済常任委員会
- 〔審査結果〕 採択
- 奥小田地区町道新設の陳情
- 〔陳情者〕 飯南町小田265番地
- 代表 小田真木自治振興協議会 会長 奥野憲明
- 〔審査委員会〕 教育経済常任委員会
- 〔審査結果〕 採択

町政を問う

一般質問

9月定例会



内藤 眞一議員

Q 頓原「道の駅」の周辺整備を

緑地公園に「ツリーハウス」が設置されたが、立ち寄り人利用する子供は多くないと認識している。その要因としては、環境整備の遅れ等が考えられる。

緑地公園のぬかるみ解消と駐車場の整備、ツリーハウス周辺の山林整備や緑地公園北側排水路の転落防止柵の設置を進めるべきだ。また、「道の駅頓原連絡協議会」を活用し、各種イベントの支援策等により、集客に力を注ぐべきではないか。

また、「大注連縄創作館」の知名度アップに向けた方策を考えているか。



自然を満喫できる遊具



「さなぎ」をイメージしたツリーハウス

A 関係団体と協議

町長 山崎 英樹

ツリーハウスは、子供たちが自由な発想で遊べる「プレパーク」として活用されている。利用者数は不明だが、少ない状況だ。

4項目の具体的な提案は、関係団体と協議し、来年度に向け検討する。

ゾーンの活用については、8月下旬に第1回のワークショップを開催した。意見を集約し、集客に努力する。

大注連縄創作館の知名度アップは、マスコミに取り上げてもらうと大変効果がある。航空会社の機内誌やビジネス情報誌で取り上げられた。また、この冬に向けて、テレビ番組での放送の話も進んでいる。おみやげ商品では、いくにゃんストラップ、しめ縄「縁結び」があり、好評である。

Q 用水路の整備は

敷波の古城を走る水路に、刈り草が詰まり畑が冠水した。勾配が少ないために砂利等が堆積し、春先の水路清掃にも困難をきたしている。

地元住民と協議して、沈砂池の設置や刈り草等の流失防止用に、スクリーンの設置をするなど、水路機能の確保をすべきではないか。

A 改良計画の中で

建設課長 那須 忠巳

現地を確認し、状況は把握している。この場所は今後の改良計画の区域となっており、上流の水路も設計の予定範囲になっている。沈砂池・横断水路など、今後の設計に際し対処法を検討する。

スクリーンの設置は、有効な場所と方法を水路利用者や地元住民と協議しながら、設置の方向で検討する。

一般質問

9月定例会



長島 正一 議員

Q 災害弱者への 防災対策は

近年の豪雨災害は、流木等により想定を超える被害が拡大し、高齢者や福祉施設への対応が問われている。

豪雨災害時には、幹線道路が遮断されることを想定し、食料の備蓄や災害のシミュレーションすべきだ。また、自主防災組織育成のため、防災士の養成が必要ではないか。

※防災士
地域の防災意識の啓発、防災力の向上に努め、災害発生時には避難誘導・救助にあたる人。日本防災士機構の認定する民間資格。認定者全国114,374人・島根県496人



土砂が迫る民家

A 実践的訓練の 実施で

町長 山崎 英樹

想像を超える自然災害が増加しており、他人事ではないことを十分認識している。

集落や福祉施設の避難訓練は、画一的訓練でなく、様々な状況を想定した実践的訓練を行う。

食料・水・電源等の備蓄は、道路が遮断される可能性を考慮検討していく。

水害のシミュレーションは出来ていなので、研究していく。また、防災士は地域で養成されるなら支援していく。

Q 平成30年問題 への対応は

国は4つの農業改革（農地の集約化・経営所得安定対策廃止・転作の廃止・日本型直接支払いの創設）により、農政の大転換を図る。経営所得安定対策の廃止は、中山間地域の農村経済、農業者・法人の持続的農業経営に深刻な影響を与えると予測され、対応が求められる。

また、本町の指針である「1町1農場1担い手構想」実現のための戦略、ブランド米確立に向けた情報発信について問う。



稲刈り風景

A 集落間広域連携 を推進で

町長 山崎 英樹

国の補正予算では、「攻めの農業」として農業予算が組まれている。しかし、中身は中山間地域を向いていない。

経営所得安定対策廃止による本町への影響は、約4千5百万円で、交付金の継続的、安定的な予算措置を国へ要望していく。

「1町1農場1担い手構想」は、集落や農家の実態を踏まえ、組織化を集落へ働きかけていく。平成30年度には、飯南町地域農業担い手支援センターを立ち上げ「集落間の広域連携」を進める。

飯南米のブランド化には、生命地域飯南町のイメージで、米戦略を築く。また、観光交流施設に飯南米PRの横断幕を設置する。

Q 保育年齢引き下げ、 課題解決を

保育年齢の引き下げには賛成だが、課題もある。

来年度、桜ヶ台保育所で生後57日入所を実施する予定だが、整備がどうなっているのか、職員体制に現場とのギャップがある。

看護師は何のために配置されるのか、子供たちの健康管理を徹底するためではないのか。本来の仕事が放置されれば本末転倒である。

ほとんどの企業が、産後8週で職場復帰となっている一方、雇用保険は1年の有給育児休業を認めている。

入所年齢引き下げとあわせ、育児休業がきちんと取れるよう、指導・援助していく必要があると思うがどうか。

A 職員増員などで 対応

町長 山崎 英樹

考えているのは保育士1人と看護師1人で、3人の乳児保育の予定。保育士、調理師の研修、看護師も他の施設での実施研修が必要である。

施設整備は、12月の予算計上で間に合う。

育児休業はそのとおりと思う。休業が取得できるような世の中作り、社会作りが求められる。努力しなくてはならない。



桜ヶ台保育所

Q 県外生の 処遇改善を

入寮生がインフルエンザに罹患した際、公共交通機関で遠方の実家へ帰した事実があった。高熱の中、長時間かけて実家に帰す。誠にかわいそうと思う。

この様なときにこそ身元引受人の出番ではないか。私なら、自宅で療養させたい。引き受けた以上、責務が果たせないとと思うからである。このことについてどう思うか。

公共交通機関での帰省は感染を広げる。この地で療養させるべきだ。

1年生を見ても、生徒12人に対し身元引受人は3人である。10人を鵬雲会の役員が引き受けている。普通ではないと思う。

県に働きかけて、何か変わる組織があれば、その組織が面倒をみるというところでOKが出るようにすべきと思うがどうか。ホストファミリー制度を、このような団体に発展させていけないものか。

A 施設提供などで 対応

町長 山崎 英樹

痛々しい中で遠方へ帰って行く、大変な想いをさせている。鵬雲館で休んで、大変だと思いが保護者の方に来ていただき、活用してもらいたい。定住関係の住宅も使える。

保護者が来られない場合、身元引受人が役割を果たしていただければありがたい。指摘のとおりだと思う。いい仕組みにするように県へも働きかけたい。

ホストファミリーは、第二のふるさととして飯南町の生活を楽んでもらうという趣旨であり、そのところが議員の考えとかみ合わない。



飯南高校寮

一般質問

9月定例会



伊藤 好晴 議員

一般質問

9月定例会



門 眞一郎 議員

Q 家庭教育・幼児教育に力を

青森県など、家庭教育に熱心な県は総じて学力が高いという調査結果がある。本町でも、子育て世代が家庭教育に興味を持ち、取り組むように推進を図るべきではないか。

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものと位置付けられている。

保育園で幼児期教育を補い、しっかりとした基礎を築くことで、その後の学力向上が期待できる。さらに保小中高一貫教育の流れを築けるのではないか。

A 再認識し取り組む

町長 山崎 英樹

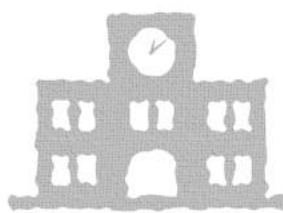
“生命地域” 飯南町の未来を拓く人づくりを目標に掲げ、保小中高一貫教育を通じて、確かな学力を育成し、まちへの愛着と誇りを育み、主体的・創造的に貢献しようとする人づくりを推進する。

人間形成の基礎となる幼児期教育の充実、および家庭教育支援は、重要な課題だ。

保育所から高校まで地元で育てる、という理念のもと、幼児期教育の重要性を再認識し、子どもたちの力を伸ばす教育指導に取り組む。



頓原小学校



A 地域資源を生かし人材育成する

教育長 安部 亘

小学校の学力テストでは、基礎学力が顕著に向上しているが、応用力はまだ課題がある。

児童生徒数が減少し、競争意識やコミュニケーション能力の欠如などが指摘されている。自ら未来を切り拓く能力を身につけるためには、生きる力を育むことが必要だ。

知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を図るため、豊かな地域資源(人・もの・こと)を活かした教育活動により、未来を担う人材育成に取り組む。

※学力試験は基礎編A問題と応用編B問題で実施されている。

A 普及は重要

町長 山崎 英樹



道の駅でWi-Fiを使う

県内でも公衆無線LANが普及し、これを活用した観光情報配信が盛んに行われるようになった。銀山街道を訪ねる会がガイドマニュアルを作っているが、これを使えば、情報発信はいつでもできる。公衆無線LAN普及を進め、条件整備を図ってはどうか。

観光交流施設12箇所に整備している。時代に即応し、様々な媒体を活用した情報発信は重要であり、誘客を推進するためにも公衆無線LANの普及は重要であると認識している。

一般質問

9月定例会



早 樋 徹雄 議員

Q 来島基幹集落センター改築は

過疎地域自立促進計画で平成30年度の建設が計画され、地域の大きな期待を感じる。

小さな拠点づくりとともに飯南高校存続のため、学習支援館に図書館の併設など、さらなる教育環境の整備、また町の教育・文化ゾーンとして教育文化ホールの施設の併設など、今後の飯南町を見据えた検討が必要である。

町長として、残された課題の一つが来島基幹集落センターの改築であり、また、飯南高校の存続を確たるものにするものであると思うが考えを問う。

A 教育・文化ゾーンとして検討

町長 山崎 英樹

来島基幹集落センターの改築は、町の発展、小さな拠点整備という観点から非常に急ぐ大切な課題である。

基幹集落センターは公民館及び学習支援館が併設されている。来島地域の住民の拠点としてだけでなく、学校教育・社会教育の重要な拠点施設になっている。

今後策定する「公共施設総合管理計画」と関連させ、教育ゾーンとしてふさわしい機能となるよう検討する。



来島基幹集落センター。

Q「ふらっと」への運営費支援を

島根県では、平成27年度から「ひきこもり、支援センター」が設置された。

こうした中、飯南町社会福祉協議会では、平成27年5月から、ひきこもり・不登校への相談業務として「ふらっと」を立ち上げ、相談支援が開始されている。自主財源だけで運営されており、経費の点から活動も限られる。

これは小さな町での先進的な取り組みである。「ふらっと」の活動が継続し、さらに充実していくよう運営費を助成し、町全体の相談支援体制の底上げ強化が望まれるが、どう考えるか。

A「ふらっと」の活動にしっかり対応

町長 山崎 英樹



社会福祉協議会

児童、生徒のひきこもり等の相談・支援は、保健福祉課に「子供・若者相談窓口」を設置し、教育委員会と連携をとり、「めだかの学校」をたち上げ、定期的に相談、支援を行っている。現在、「寝たきりゼロ・虫歯ゼロ・ひきこもりゼロ」を掲げ各種施策を進めている。

「ふらっと」の活動は大変ありがたいが、力強く思う。運営費の支援は社会福祉協議会とも協議し、今後の活動に対応したい。



陳情箇所視察

教育経済 常任委員会

委員長 長島 正一

平成28年度 飯南町一般会計補正予算

養豚堆肥の品質向上と臭気対策効果を期待

畜産業費 1,250万円(全額国庫補助金)

堆肥発酵処理コンポスト導入を支援するもので、堆肥の品質向上と臭気対策の効果が上がることが期待される。

堆肥処理については、完熟していないなど多くの課題があり、抜本的対策を求めた。

農家所得の向上に一役

木質バイオマス推進事業 75万円

(補助金60万円と里山商品券増刷15万円)

未利用材買い取り数量を3倍に増額する。これにより住民の持ち込みに支障がないようにする。



査定結果 約98%認定される

公共土木施設災害復旧費 7,978万円

7月3日豪雨により被災した15カ所を復旧するもの。



崩壊した道路

計画的防止対策の実施を求める

道路維持修繕工事委託料 135万円

邑智郡での県道落石事故を受け、建設業協会へ調査委託した結果、落石確認箇所21カ所(赤来地区13カ所・頓原地区8カ所)を確認し、落石注意喚起看板を設置する。

早急な落石防止対策を求めたのに対し、県の落石事故再発防止検討委員会の提言内容を参考に交通量等を考慮し、計画的に行うとの答弁であった。



角井(伊比地区)通信鉄塔完成



町の斎場施設視察



長生き体操

筋力アップで介護予防に取り組む

地域介護予防活動支援事業 51万円

地域づくりによる介護予防を町全体で取り組むため、長生き体操を普及していくもので、そのため必要な介護予防用品(手首、足首装着用のおもりバンド)の購入費。自主性を重んじて、まずは町内200人を目標に推進するとの説明であった。

小単位でのコミュニティづくりと、介護予防への取り組みが期待され、積極的な取り組みを求めた。

土足禁止から土足可に

赤名農村環境改善センター改修事業

252万円

大会議室を土足で使用できるよう改修するとの説明があった。なお、役場庁舎から屋根続きになるよう検討が望まれるとの意見があった。

抜本的空き家対策始まるか

空き家対策事業 439万円

これまで議会は空き家対策を求めてきたが、このたびようやく予算が提起された。空き家対策計画策定のための調査費用。調査結果により検討するとの説明だった。増加傾向にある空き家対策を求めた。

保育開始年齢引き下げへ

生後10か月からの保育を、57日から引き下げることが検討されている。目標は平成29年4月から桜ヶ台保育所で実施。保育ニーズへの対応であるが、業務委託を受けている社会福祉協議会では、保育士、看護師の確保が出来ていない。

保育業務の委託はしても、保育行政は町の責任である。このことを重く受け止めるべきと意見した。

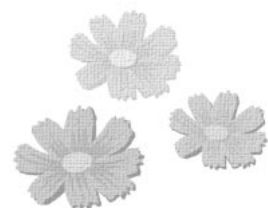
議会全員協議会の議題

8月2日

- ①職員駐車場照明施設の老朽化の説明
- ②飯南町地内への変電所及び送電線の設計計画の説明
- ③デマンド(予約)型乗合タクシーの運行説明
- ④スクールバスの交通事故報告
- ⑤飯南町特別支援相談ネットワーク事業の実施説明
- ⑥「在伯島根県人会創立60周年記念式典」に係る訪問団の派遣説明

9月16日

- ①任期満了に伴う飯南町長選挙日程の報告
- ②任期満了に伴う飯南町議会議員通常選挙投票予定日の報告
- ③知事要望の結果報告
- ④総合振興計画等評価委員会の報告
- ⑤中国電力(株)東島根変電所(仮称)計画に伴う電磁界の説明
- ⑥赤名小水力発電所の経済産業省補助金による調査研究の説明
- ⑦デマンド型乗合タクシーの運行に伴う生活路線バス運行ダイヤの変更説明
- ⑧飯南町特定不妊治療費補助金交付要綱の一部改正の説明
- ⑨総合交流ターミナルと農産物加工施設の指定管理者公募の説明
- ⑩落石調査の結果報告
- ⑪派遣医師の異動報告
- ⑫赤名農村環境改善センターの駐車場照明の報告
- ⑬国道54号等のリフレッシュ工事の報告



総務厚生 常任委員会

委員長 早樋 徹雄

決算審査特別 委員会を設置

平成27年度飯南町各会計の歳入歳出決算を審査するため、決算審査特別委員会を設置しました。

委員長 高橋 英次 委員 難波 俊司 委員 内藤 眞一
副委員長 熊谷 兼樹 委員 伊藤 好晴 委員 早樋 徹雄

議会活動報告 [7月~9月]

- 7月 7日 議会広報編集委員会:紙面校正作業
14日 議会広報全国研修会
21日 教育経済常任委員会:閉会中の調査
29日 教育経済常任委員会:閉会中の調査
31日 県消防操法大会

- 8月 2日 臨時議会・議会全員協議会
12日 議会運営委員会:諮問に関する事項
17日 島根県町村議会議長会 議会広報研修会(松江市)
25日 雲南広域連合議会

- 9月 2日 議会運営委員会:9月定例会の提出議案、日程外の協議
6日 9月定例議会:本会議、町長提出議案の説明、質疑、委員会付託
9日 :本会議、一般質問
12日 :委員会審査
13日 :委員会審査
14日 :委員会審査
15日 :委員会審査、予算特別委員会審査
16日 9月定例議会:本会議、委員長報告(質疑)、討論、採決・議会全員協議会
23日 議会広報編集委員会:一般質問要約作業
27日 議会広報編集委員会:編集作業

技術の熟練を利益につなげたい

株式会社SBN 代表取締役 中岡 啓さん

指定管理を

受けておられますが

(株)SBNはリンゴ園と牡丹園の指定管理を受けています。必要経費を町から管理料として受け、売上の全額を町へ支払うという方式です。

売り上げが一定額を超えた場合には、超えた金額を会社と町で折半します。



中岡 啓さん

今年の状況は

夏がとても暑かったため、玉太りが悪いのではと心配しましたが、順調に生育し、日照時間が長かったので糖度の高いリンゴができました。

天候が良いと病気は少なくなりませんが、ダニが多くなり、今年は苦勞しました。

経費のほとんどは人件費です。しかし、人の手を掛けなければいけないのではありません。

今年は日当たりを均一にするため、球回しをして、全体に発色のいいリンゴになっています。

どんな経営をしていますか

一番大きな樹で600個くらい、ふつうの成木では200〜300個くらいの収穫です。樹は全部で800本あり、品質のいいものができる。全体の売り上げの予測ができます。

私がこの仕事について17年になります。最初は売るために苦勞しました。今は、お土産に使っていただけるようになります。

つて、町内の皆さんに感謝しています。

従業員をこれ以上雇用できないので、この場所で栽培面積が増やせたら、もつと売り上げを上げることができません。



出荷作業中の奥さん

経費の節減努力は

リンゴの品質を高めて価格の安定を図ることが、一番の収益確保につながります。天候不順などで収量や品質が左右されることがありますが、一人ひとりの技能を向上させるよう努力しています。

経費は、すでに絞れるだけ絞っていますので、従業員の熟練が利益につながります。特に剪定は高度な技術が要求され、経験を積むしか技術の習得方法はありません。

今月の表紙写真



リンゴ園で可愛い写真が撮れました。リンゴ狩り開園初日は天候にも恵まれ、多くの家族連れがお弁当持参で来園され、スタッフも大忙し。リンゴを頬ばり「お腹いっぱい食べたよ」と自慢げに張り切る子どもたちも。「あのリンゴがいい…」とせがむ妹に、お兄ちゃんも張り切ってもぎ取りに挑戦していました。

編集後記

稲の刈り取り時期を迎え、連日の雨、農作業の遅れに頭の痛い秋です。

台風が少ない東北、北海道では、経験のない被災で、農業被害は野菜の高値を招き、福祉施設の被害では、災害弱者への対応の難しさを見せつけられました。

いずれも地球温暖化の影響で、行政も地域もこれまでの常識を超えた対応が求められます。

さて、少子高齢化が進み「安心して暮らせる社会」が求められる中、定例議会において、地域包括ケア推進局での保険・医療・介護・福祉の官民連携の強化や病院経営の大幅な改善が報告されました。

また、10月より頓原・来島地区ではデマンド型乗合タクシーの実証運行が計画されており、買い物や通院等、利便性が図られることが期待されます。

今後とも安心して暮らせる社会の実現のため努力していきます。皆様のご意見をお寄せ下さい。

議会広報編集委員会 長島 正一